兵庫の治山・林道と森林整備

やまなみ

題字 谷　洋一 会長

林道「三原・水口線」開通式・記念碑除幕式

第21号
平成19年1月5日発行

- 平成19年知事新春メッセージ「元気ひょうごへ飛躍」(兵庫県知事 井戸敏三) …… 2
- 年頭挨拶「新春を迎えて」(㈳兵庫県治山林道協会 会長 谷洋一) …… 3
- 平成18年度 秋の叙勲・林業賞受賞の皆様(兵庫県農林水産部農林水産局林務課) …… 4
- 治山・林道コンクール受賞者の紹介 …… 5
- 林道「三原・水口線」が全線開通(兵庫県農林水産部農林水産局治山課) …… 6・7
- 10月29日(日)「ひょうご森の日」の森づくり活動に多数の県民が参加
  (兵庫県農林水産部農林水産局豊かな森づくり室) …… 8
- 平成18年度 兵庫県緑の少年団活動発表大会の開催について
  (兵庫県農林水産部農林水産局豊かな森づくり室) …… 9
- 第21回「ひょうご木材フェア」開催(兵庫県木材利用推進協議会) …… 10
- 兵庫県CGハザードマップについて(兵庫県農林水産部農林水産局治山課) …… 11
- 「兵庫楽農生活センター」オープン …… 11
- 「たんば地域木材フェア」開催(丹波県民局地域振興部柏原農林振興事務所) …… 12・13
- 紅葉の林道自然観察ウォーキングを実施 …… 14・15
- 大久保地区地すべり災害の概要(但馬地域山地地すべり対策室) …… 16・17
- 間伐材製品利用事例集の発行について(但馬県民局地域振興部和田山農林振興事務所) …… 18・19
- 語り継ごう「山津波」下三方小学校の取り組み(西播磨県民局地域振興部龍野農林振興事務所 谷本実) …… 20
- 兵庫のキノコ(9)(丹波県民局地域振興部柏原農林振興事務所 正井俊郎) …… 21
- 森林・林業関係国予算内示の概要(H19当初予算、H18補正予算) …… 22・23・24

平成19年知事新春メッセージ
元気ひょうごへ飛躍を

兵庫県知事　井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。

全県を舞台に開催された「のじぎく兵庫国体」と「のじぎく兵庫大会」では、復興支援への感謝とともに、生まれ変わった新たな兵庫を全国にアピールできました。

ここで培った感謝、感動と共生の心を基として、これからも県民総参加で、新しいふるさとづくりを進めようではありませんか。

広大で豊かな県土に、魅力あふれる五六〇万の人々。兵庫は元気に充ちています。

その一つひとつを結集し、質の高い生活ができる地域づくりを進めます。

原動力は、人の元気、産業の元気、地域の元気、社会の元気です。

夢や志豊かに自信を持って歩む若者たち、地域経済の力強い再生、各地で繰り広げられる様々な地域づくり活動、積極的なボランタリー活動、いずれも元気の源です。

そして、元気な兵庫は、安心と安全な兵庫で支えます。

少子子育て対策や健康づくり、福祉、環境優先で築く安心な兵庫、防災減災対策やくらしの安全対策、交流連携基盤が整った安全な兵庫、この二つの基盤を整えます。

また、分権型社会にふさわしい自治を確立し、人々の信頼に応えます。

平成十九年は、〝元気ひょうご〟へ飛躍の年です。

元気な兵庫、安心な兵庫、安全な兵庫、信頼の兵庫をつくり、ともに、ふるさとの未来を拓いていきましょう。

現在（げん）を　基（き）本に進む　人（ひ）々が　世（よ）の未来（みら）生（い）み　合（ご）意しつくる

年頭挨拶

新春を迎えて

㈳兵庫県林業会議
兵庫県森林組合連合会
㈳兵庫県治山林道協会
会長 谷洋一

新年明けまして おめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いでお健やかに、新しい年を迎えられましたことをお喜び申し上げます。

平素は、当会の運営につきまして、格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

古いことを申しますが、昭和34年の伊勢湾台風におきましては、山地崩壊や河川の氾濫など、但馬・丹波地域において大きな被害が発生しました。

しかしながら、平成16年の台風23号など一連の台風による森林被害は、それをも上回る甚大なもので、とりわけ風倒木被害はかつてないものとなりました。その原因は、山の手入れが十分にされていないことに加え、近年の異常気象による極端な降水量の増加が災いしており、今後も山地災害の多発が懸念されるところです。

このようななか、今回の風倒木被害につきましては、森林組合系統間や素材業の皆様との連携を図りながら、復旧に向け鋭意努力を重ねているところでございます。

また、昨年7月、県で「ひょうご治山・治水防災実施計画」が策定され、森・川・海の流域全体の視点で「減災社会」に向けた総合的な対策を推進されますことは、時宜にかなったものであり大いに期待しているところであります。

さて、山では、伐採可能な人工林が年々増え、建築用丸太として十分使える資源になってきておりますし、外材輸入は諸外国の事情から、今後、不安定になる心配があります。加えまして、杉の丸太が外材よりも安いという、かつてないような状況となっております。

これは、木材業界にとって県産木材の利用を進める絶好のチャンスでもありますが、本県のような零細な製材業界では実現が難しいと思います。

一方、山元では、現在の立木価格では伐採しても再造林できないという状況で、あきらめてしまっており、良好な森林がなくなってしまうのではないかと心配しております。

こういった林業界と木材業界の課題を克服すべく、県で、「県産木材供給センターの事業化」を検討して頂いておりますが、この製材業界の改革や素材生産への新しい取組を実行に移してこそ、初めて、外材と比べて遜色のない品質と価格の県産木材が安定的に供給することができると考えます。それには、スケールメリットを活かし、製材コストを如何に低減するか、品質管理を如何に徹底するかであります。要は、森林組合が森林所有者の伐採現場をとりまとめ、原木を安定的に供給することができるかにかかっております。

平成19年は、我々林業に携わる者として、昨年以上の団結と強固たる意志を持って、素材生産、製材業の改革に向かって邁進していこうではありませんか。

終わりになりましたが、皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

平成十八年度　秋の殊勲・林業賞受賞の皆様

兵庫県農林水産部農林水産局林務課

■瑞宝単光章

元　養父市森林組合作業班長

中島　勲　氏

■主なご功績

昭和41年に旧八鹿町森林組合作業班員に採用され、その後、同47年頃から、本県の代表的品種である「妙見スギ」苗木生産に従事し、優良な山行苗木の生産に貢献されています。特に種子採取は難易度の高い危険作業で、現在、県内で作業に従事できるのは氏一人のみとなっています。

また、造林事業においても、苗木に対する豊富な知識を活かした適正かつ丁寧な作業で高く評価されています。昭和56年に作業班長に就任し、養父郡4森林組合の合併後も作業班員総勢84名を率いる作業班長の一人として、永年培った知識や技術を班員に広め、若手作業班員の指導・育成に尽力されました。

■林業賞

多可郡多可町

森安　勲　氏（五九歳）

■主なご功績

低コスト作業システムの実現と県産木材の利用拡大

森安　勲氏は、高性能林業機械による新しい木材搬出の作業システムを早くから導入するとともに、積極的に作業路の開設を推進し、作業効率の向上を図りました。

また、県指導林家、県木材業協同組合連合会の理事として、地域の公共施設の木造化の促進や県素材生産業協同組合連合会の発足に尽力し、副理事長として、木材価格低迷のなか、木材記念市や研修会の開催に尽力するなど県内の木材産業の発展に貢献されました。

㈲森安木材代表取締役

宍粟市一宮町

小林　温　氏（五四歳）

■主なご功績

優れた林業経営と地域林業の振興

小林　温氏は、宍粟市一宮町の所有山林110ha（人工林率92％）で、自ら簡易作業路を開設し、ha当たり109mの高密度路網を整備するとともに、ウインチ付きグラップルやフォワーダなど機械化により収入間伐を繰り返し、長伐期の優良大径材生産を目指した林業経営を実践。また、県指導林家会理事として、地域に密着した林業の振興に貢献されました。第42回農林水産祭全国林業経営推奨行事では林野庁長官賞を受賞されました。

小林林産代表

朝来市生野町

山田　新也　氏（六六歳）

■主なご功績

災害に強い路網開設と地域林業の振興

山田新也氏は、朝来市生野町や神崎郡神河町の所有山林312ha（人工林率87％）で、丸太組工法を導入した簡易作業路を積極的に開設し、大雨でも崩れない災害に強い道づくりを確立。県青年林業士の息子と二人三脚で、高密度路網と択伐による循環型長伐期施業を取り入れた林業経営を実践されています。

また、県指導林家として、県内外から多くの視察者を受け入れるなど、熱心に林業技術の普及に努め、地域林業の振興に貢献されました。

山田林業代表

治山・林道コンクール受賞者の紹介

平成18年11月22日㈬に東京・平河町‥海運ビルで開催された「２００６　治山・林道のつどい」に先立ち、㈳日本治山治水協会・日本林道協会主催による治山・林道の各種コンクール入賞者の表彰が行われました。

1、第22回民有林治山工事コンクール

林野庁長官賞に兵岡建設株式会社(佐用町)が輝く

対象工事は、平成16年の一連の台風による土砂流出や風倒木被害の大きかった佐用町水根地区の復旧治山事業で、工事アクセスも悪く、人家直上部の狭隘な施行箇所の中で、困難な風倒木処理や安全な工事施工・管理に努められるとともに、地域住民の方々への緊密な情報伝達による工事車両の安全運行や梅雨期災害を想定した地元の消防団・住民等の参加を得た防災訓練等を主体的に行うなど安全管理への取組が評価された。

安全教育

安全管理

谷止工完成

2、第22回民有林林道工事コンクール

日本林道協会長賞に株式会社　総合グリーン(多可町)

対象工事は、平成16年度森林管理道開設事業の新設工事（千ケ峰・三国岳線―加美工区）で、急斜面など地形・気象条件の厳しい現場で有ったが品質・出来型管理等に努め、県下で施行実績の少ない「大型プレキャスト擁壁」の施行にあたり、メーカーとの連携による独自の効率的施工や環境対策・安全管理への取組が評価された。

施工状況

緑化状況

3、平成18年度林道維持管理コンクール

日本林道協会長賞に香美町「野間線」

当該路線は、利用区域内に豊富な森林資源を有しており、積極的に森林整備が行われている。また、周辺施設として「美方高原自然の家」やスキー場「ミカタスノーパーク」などもあり、森林レクレーション利用の頻度も高いため、側溝清掃、路面補修、路肩の草刈等維持管理が計画的に行われていることが評価された。

路面維持管理工事

木製側溝蓋設置

法面維持管理工事

4、第7回民有林治山木材使用工事コンクール

㈳日本治山治水協会長賞に但馬県民局地域振興部・豊岡農林振興事務所

対象工事は、平成16年台風災害に係る復旧治山事業（豊岡市出石町小人地内）で、谷止工の型枠に残置型丸太型枠を使用し周辺景観との調和を図ると共に、周辺山腹工事等の土砂流出防止と早期緑化を図るための丸太柵工や谷止工で寸断された林内管理道復元に丸太階段工等を施工するなど積極的な木材利用への取組が評価された。

転落防止柵･丸太階段工

木柵工（3段積）

5、第7回民有林林道木材使用工事コンクール

日本林道協会長賞に県但馬高原林道建設事務所

対象工事は、平成17年度県単独林道整備事業改良工事（森林基幹道・千町段ヶ峰線）で、平成16年台風23号災による風倒木の有効活用を図るため、林道切取法面下部の丸太柵工や安全走行のための視線誘導標識への活用など木材利用の取組が評価された。

丸太柵工

視線誘導標（近景）

林道「三原・水口線」が全線開通

兵庫県農林水産部農林水産局治山課

平成４年度から過疎代行林道として県が開設工事を進めてきた林道「三原（みはら）・水口（みのくち）線」が全線開通し、11月20日に県と豊岡市の共催による開通式が開催されました。

林道「三原・水口線」は、豊岡市竹野町三原と豊岡市日高町水口を結ぶ幅員４ｍの自動車道２級の林道で総延長は８、０４６ｍです。本林道は、豊岡市竹野町と豊岡市日高町の６２７haの広大な森林を利用区域とし、その３分の２の４１６haが人工林という豊かな森林資源を有しています。

本林道は、旧竹野町の民有林林道開設事業として昭和36年度及び昭和40～42年度に延長２、１００ｍを開設し、平成４年度から平成17年度（繰越を含む）まで、県営の過疎代行林道として延長５、９４６ｍを開設しました。総事業費は、町施行を含み、約16億７千万円となっています。

本林道の開設工事は、但馬地域の脆弱な地質と雪深い気象条件の下で行われ、特に斜面に転石が点在した部分では、法面の安定に工夫をこらして安全な施工を目指しました。また、県産木材を利用したり、補強土よう壁を活用して残土を減らすなど自然環境に配慮した工法も導入しています。

我が国の林業活動を取り巻く環境は厳しさを増しています。特に、低価格の外国産木材が増えて木材価格が低迷し、国産木材の生産活動が停滞して森林の手入れも十分出来なくなっています。そんな中で、外国産木材と同様に低コストで木材を安定して供給し、林業労働の安全性も確保していくには、車両系の高性能林業機械の導入が必要で、そのための林内路網の整備が不可欠です。中でも林道は、林内路網の中核として重要視されており、本林道も、こうした林業生産活動の基盤として大きな期待が寄せられています。

豊岡市竹野町三原地区は、日本海に注ぐ竹野川の源流に位置し、南側に通り抜ける車道を持たない、いわゆる「行き止まり」集落の一つでした。しかし、三原地区と山を隔てた旧日高町とは古くから交流があり、かつては郵便局や小学校も旧日高町側にあって最初の電話も日高町から引かれたとのことです。現在でも三原地区と旧日高町とは深い結びつきがあり、本林道の開通は、三原地区と水口地区の長い間の共通の願いでした。

林道「三原・水口線」位置図

林道「三原・水口線」概要

1. 開設経緯 竹野町施行 県施行	 昭和36・40～42年度（４ヶ年）　事業費 13,000千円 平成４～17年度（14ヶ年）　事業費 1,661,689千円
2. 総延長	総延長 8,046m（竹野町 5,563m・日高町 2,483m）
3. 総事業費	1,674,689千円
4. 利用区域面積	627ha
5. 道路規格	自動車道２級　幅員 4.0m　設計速度 20km/h

林道「三原･水口線」W=4.0m L=8,046m

開通式では、西村農林水産部長、奥田豊岡市助役ほか関係者の手で、開通記念碑に掛けられた白布が除幕され、旧竹野町の事業として着工以来45年に渡る開設工事の完成を祝いました。

記念碑には、県治山林道協会長の谷洋一氏揮毫による「永道」の文字が刻まれています。これは、長くにわたり開設工事を進めてきた林道を、末永く大切に使って欲しいという思いが込められて書かれたものです。また、地元関係者のお話では、三原側の本林道入口付近には「永道」という地名があるそうです。偶然の一致ではありますが、「三原・水口線」の記念碑とともに、この小さな地名も永く伝えられることでしょう。

開通記念碑除幕式（H18.11.20）

林道「三原・水口線」開通記念碑

本林道の開通式で、最終工事の区間が県から豊岡市に引き継がれましたが、全線開通した林道「三原・水口線」が、これからの森林整備や地域交流に大きな役割を果たして行くものと期待されています。

森林基幹道「三原・水口線」年度別実績

（単位／延長：m　事業費：千円）

施行主体	施行年度	延長	事業費	旧竹野町				旧日高町	
				三原工区		水口工区			
				延長	事業費	延長	事業費	延長	事業費
町	S36	760	3,000	760	3,000				
	S40	610	2,900	610	2,900				
	S41	219	6,400	219	6,400				
	S42	511	700	511	700				
	計	**2,100**	**13,000**	**2,100**	**13,000**				
県	H4	202	36,070	202	36,070				
	H5	964	127,000	284	47,000			680	80,000
	補正	210	60,000	210	60,000				
	H6	264	80,000					264	80,000
	H7	119	59,000	119	59,000				
	債務	28	80,000	28	80,000				
	H8	240	120,000					240	120,000
	H9	843	181,671	203	67,700			640	113,971
	債務	210	80,000	210	80,000				
	H10	318	56,548					318	56,548
	H11	254	99,400	254	99,400				
	H12	305	100,000	305	100,000				
	H13	296	90,000	296	90,000				
	H14	182	75,000	182	75,000				
	H15	327	81,000					327	81,000
	H16	498	170,000	95	90,000	389	80,000	14	
	H17	686	166,000	300	83,000	386	83,000		
	計	**5,946**	**1,661,689**	**2,688**	**967,170**	**775**	**163,000**	**2,483**	**531,519**
合計		**8,046**	**1,661,689**	**4,788**	**980,170**	**775**	**163,000**	**2,483**	**531,519**

※施行年度には翌年度に繰越したものを含む

10月29日(日)「ひょうご森の日」の森づくり活動に多数の県民が参加

兵庫県農林水産部農林水産局豊かな森づくり室

平成17年の秋に県立有馬富士公園（三田市）で開催された全国育樹祭を契機に、森の大切さや森林整備の重要性への理解が深まっています。

県では、こうした森づくりの気運を一層拡げていくために、全国育樹祭の開催日にちなんで**毎年10月の最終日曜日を「ひょうご森の日」**とし、多くの皆さんがこぞって森に入り様々な森づくり活動を実践する取り組みを進めています。

昨年は、10月29日(日)を中心として、各県民局が主催する森づくりイベントに加え、多くの皆さんがより身近な場所で森づくり活動に参加できるように、各地域の森林ボランティア団体等が主催するイベントも加えて、県下46箇所で多彩な森づくり活動を実施し、約一万名の県民が間伐や枝払いなどに汗を流しました。

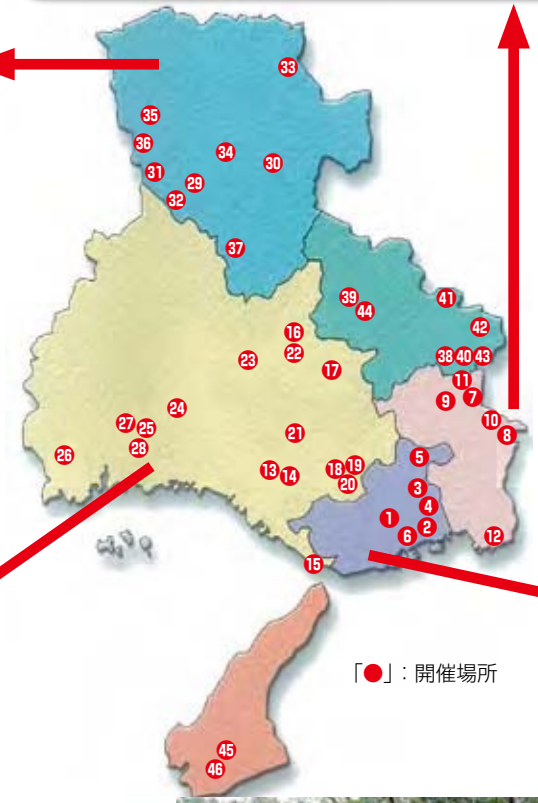
森林観察

～ 川西市黒川 ～

お茶席の高級炭として有名な「菊炭」は、黒川地域から切り出したクヌギを原木にした炭で切り口が菊の花に似ています。当日は、全国的にも貴重なクヌギを中心とした里山の景観や機能を守ろうと、地元住民ら約3,000人が参加してクヌギの植栽、下刈りや間伐、里山ウオークなどを行いました。

～ 豊岡市法花寺 ～

竹材を活用することで増え続ける竹林の適正な管理につなげようと、竹林伐採や竹炭焼きを体験するイベントが開催されました。地元住民ら約100人の参加者は、それぞれが約40cmに切られた竹をさらに短冊形に切り分け、土とドラム缶などで作った炭焼き窯に投入。初めて体験する炭づくりに歓声をあげました。



～ たつの市揖西町 ～

たつの市揖西町の菖蒲谷森林公園では、地域住民や緑の少年団など約500名が一斉に育樹作業を実施。式典会場となった大成池前のステージでは、草笛や地元の吹奏楽団による「森の音楽会」も開かれ、参加者はさわやかな秋空のもと、森の素晴らしさを満喫する一日を過ごしました。

育樹体験

～ 神戸市北区 ～

紅葉の美しいことで有名な有馬温泉瑞宝寺公園において、地元住民ら約250人の参加により、もみじ林の間伐や枝打ち等の育樹イベントが開催されました。イベントに参加した地域住民が公園を訪れた散策者にもみじ林の手入れの必要性を説明するなど、県民参加のの輪を拡げることにもつながった催しとなりました。

平成18年度兵庫県緑の少年団活動発表大会の開催について

兵庫県農林水産部農林水産局豊かな森づくり室

緑の少年団は、昭和56年の第26回兵庫県緑化大会を契機に県下各地で結成が始まり、平成2年には、少年団活動の充実強化を図るため兵庫県緑の少年団連盟が設立されました。平成18年7月末現在では、256団が連盟に加入し、7、157名の団員が、それぞれの地域で活躍しています。連盟では、緑の少年団員が一堂に会して、日頃の活動成果を発表して互いに情報交換するとともに、活動の活発化や仲間づくりを進めることを目的として、「兵庫県緑の少年団活動発表大会」を毎年開催しています。

今年の大会は、11月23日㈭に姫路市のイーグレひめじ　あいめっせホールで開催しました。県下各地域の緑の少年団や引率者260名の参加があり、代表の7団が活動発表を行いました。

活動発表では、各団がパワーポイント等を活用し、プレゼンテーションに工夫を凝らして日頃の少年団活動の成果を発表しました。地元の森林での学習活動、校内でデザインを募集した少年団の帽子作り、大きな声を出して頑張った緑の募金活動のほか、各地区の特徴ある活動に会場の少年団員達は聞き入っていました。

活動発表　奈佐緑の少年団

また、発表後の審査の時間を利用して、ひょうご森のインストラクター25名の案内で、姫路城周辺の植生観察会に参加しました。団員達は、世界遺産である姫路城の素晴らしさに感心しつつ、タラヨウの葉に文字を書いたり、城周辺の樹木を観察するなどして、楽しみながら学習しました。

植生観察する少年団

観察会の後、㈶野外活動協会専務理事の清水勲夫審査員長より結果発表が行われました。

最優秀賞には、宍粟市の野原緑の少年団が選ばれました。

ミニ自然学校で学んだ「自然のみずがめ」と呼ばれるブナの木のことや、内容を暗記し、前を向いて大きな声で発表したことなどが高い評価を受けました。

さらに、神戸市の有野の森みどりの少年団と豊岡市の奈佐緑の少年団が優秀賞、その他の団が努力賞を受賞しました。

発表した全ての団には、兵庫県産のスギの木でできた特製の表彰状と、今年度はJAバンク兵庫信連の協賛で活動助成金が授受され、会場はより一層の拍手に包まれました。

なお、最優秀賞を受賞した野原緑の少年団は、第31回全国育樹祭の併催行事として平成19年秋に開催される「全国緑の少年団活動発表大会」の県代表として推薦されることになっています。

大会に参加した緑の少年団の皆さんが、今回聞いた他地区の活動成果を今後に活かし、各地区の緑の少年団活動が一層発展していくことを期待しています。

最優秀賞　野原緑の少年団

○発表団と発表テーマ

神戸地区代表
有野の森みどりの少年団（神戸市）　「森と木を　友だちに」

東播磨地区代表
播磨北小学校緑の少年団（播磨町）
「播磨北小学校緑の少年団３年間の活動」

北播磨地区代表
かわい緑の少年団（小野市）
「みどりあふれるハートフルシティおの」

中播磨地区代表
坊勢緑の少年団（姫路市）　「森からのおくりもの」

西播磨地区代表
野原緑の少年団（宍粟市）　「ふるさとの自然を守る」

但馬地区代表
奈佐緑の少年団（豊岡市）　「私たちのふるさと奈佐」

丹波地区代表
和田緑の少年団（丹波市）　「大好き！薬草と緑の町　和田」

第21回「ひょうご木材フェア」開催

―来場者約12万人―

兵庫県木材利用推進協議会

兵庫県木材利用推進協議会では、「地球環境を守る木のある暮らし」をテーマに毎年恒例の『第21回ひょうご木材フェア』を、10月8日(日)に神戸メリケンパーク広場において開催しました。

第21回ひょうご木材フェア

今年も「ラジオ関西まつり（第11回目）」との共催イベントとして実施いたしましたが、当日は、～見る・ふれる・遊ぶ～をコンセプトに、家具・玩具など身近な木製品の展示や、親子で楽しめる木工教室等日曜日の一日を家族連れで過ごすなど多くの参加者で賑いました。

その他、〝暮らしの中で使える様々な木製品や竹細工・花苗などの販売〟また、「木の特性」「木造住宅の良さ」「兵庫県産木材利用木造住宅特別融資制度」「公共土木工事資材」等をパネル展示で紹介し、〝木の良さ〟について理解を図りました。

木工教室

また、㈳兵庫県治山林道協会も協賛し出展ブースに「土石流モデル実験装置」「降雨体験装置（カッパ君）」「立体映像ビックリ館」を展示し、土石流が発生した場合、治山ダムが有るのと無い場合の下流人家等に与える影響の違いや、立体映像による土石流の体験、雨量強度の違いなどを視覚的に見て頂き、好評を博しました。

土石流モデル実験の実演

また、「ラジオ関西まつり」のステージでは、音楽のイベントやアトラクション等が催され、メリケンパーク広場は楽しい一日でした。

ラジオ関西まつりのステージ

出展ブースの賑わい

兵庫県CGハザードマップについて

兵庫県農林水産部農林水産局治山課

台風や地震などの自然災害から身を守るには、自分の命や財産は自分で守る「自助」、地域でお互いに助け合う「共助」、そして行政による防災工事や情報提供による「公助」がありますが、公助によって全ての災害から守ることには限界があり、特に大規模災害の場合はそれが困難になることは、阪神淡路大震災、平成16年の台風災害で貴重な教訓として明らかになりました。

災害への備えとして、日頃から防災や減災に関する情報を共有していただき、いざという時には安全な場所へ避難することが重要です。

減災のための情報としては、地図上で「どこが危ないか」の危険箇所や避難所の位置を示し、「いつ危ないか」の参考となる雨量、河川水位の観測データと、自然災害の内容を知る動画などを県ホームページ上で「兵庫県CGハザードマップ」として公開しています。

ちなみに、CGはコンピューターグラフィックスの略で、CGのような3次元動画映像を含んでいるところからこの名が付いています。

土砂災害のページでは、林野庁の山地災害危険地区と国土交通省の土砂災害危険箇所がひとつの画面で示され、全県の上空からの写真画面や住所から、見たい箇所の検索ができます。

山地災害危険地区などの危険箇所、避難所の確認をしていただき、雨の降り方などから危ないと思ったり（1時間雨量で20ミリ、連続雨量で100ミリが目安です。）、避難に関する情報が市町長から発せられた場合には、避難することが大事です。

赤い人が走るマークは、避難所を表しています。

兵庫県ＣＧハザードマップ　http://www.hazardmap.pref.hyogo.jp

「兵庫楽農生活センター」オープン!!

平成18年11月11日、神戸市西区神出町に「兵庫楽農生活センター」がオープンしました。

「楽農生活」とは、食と農に親しむことにより、自然とふれあい、生活にゆとりとやすらぎをもたらすライフスタイルのことで、「兵庫楽農生活センター」では、その実践を支援する様々なプログラムを実施しています。

◆楽農学校事業

- 生きがい農業コース：市民農園利用などに向けた基礎的な栽培研修（期間：6ヵ月）
- 就農コース：栽培技術から農業経営までを含めた総合的な研修（期間：1～2年）
- アグリビジネスコース：農産物加工や直売の実践的な研修（期間：6～7日）

◆楽農交流事業

- レストラン：地域の農産物など食材にこだわったレストラン
- 農産物加工体験：ジャムや豆腐づくりなどの加工体験や料理教室
- 親子農業体験教室：親子で参加する田植えから稲刈りまでの体験
- 野菜栽培体験教室：野菜の栽培や収穫体験
- 森の遊び塾：野山をフィールドとした里山づくりや自然体験　等

■所　在　地：神戸市西区神出町小束野30－17
（車では、玉津ＩＣから国道175号を北へ20分）

■開園時間：9時～17時
（レストランは11時～21時）

■休　園　日：水曜日、年末年始

◆問い合わせ先：兵庫楽農生活センター
☎078－965－2651

木を楽しみ、木でもてなし、森林からのメッセージを発信
「たんば地域木材フェア」開催

丹波県民局地域振興部柏原農林振興事務所

木の良さをＰＲし、丹波産材の消費を伸ばそうと、兵庫県立丹波年輪の里で11月11、12日の２日間「たんば地域木材フェア」（主催：たんば地域木材フェア実行委員会）が開催されました。

両日ともにあいにくの小雨模様でしたが、約８千人の来場者がありました。

▲上田棟次郎会長（丹波市木材林産協同組合理事長）による開会あいさつ

■「もくもく市」

丹波地方の製材所が端材、半製品数千点を販売しました。丹波産のスギ、ヒノキ、ケヤキ、サクラなどの切り株や、板材、丸太が１００円から数万円で売り出され、日曜大工の愛好者など多くの客で賑わい、過去最高の売り上げがありました。

もくもく市で購入した材のカットサービスコーナーも大忙しでした。

▲多数の来場者で賑わう「もくもく市」の様子

■ウッディライフスタイル館

木製家具に囲まれたシアターライフを提案した「ウッディライフスタイル館」では、電化製品販売店と協力してリアルな室内空間を演出し、温かい飲み物を提供、ゆったりとした空間で木材の良さと暖かさを体感していただきました。

また館内でＮＰＯ法人ＷＯＯＤ ＡＣの滝口泰弘代表理事を迎え「近くの山の木＝環境にやさしい」と題した講演会も開催しました。この講演会には神戸農林水産振興事務所の協力で神戸方面の建築士、工務店の方が多数参加され、フェアを楽しんでいただきました。

■企業・団体ブース

地域で活躍する企業、団体が木材を利用した家具や住まいづくりを紹介し、各ブースが工夫を凝らした展示、住宅相談コーナーを設け、木の魅力をＰＲしました。

▲館内の様子（靴を脱いで木の暖かさを実感）

■森の青空オブジェ

丸太のアーチが来場者を迎え、オブジェ内での手作りイス、木製遊具の販売が好評で、音が鳴る

▲備長炭の美しい音色にビックリ！

備長炭コーナーでは、親子での来場者が備長炭の音色を楽しみました。

■原木特別市

約３００年生のスギ大径材の競り売りをした原木特別市では、来場者が興味津々で見入っていました。

▲普段見ることがない大径材に興味津々

■フードコーナー

▲普段は木を扱う業界関係者もフェアでは“パティシエ”

大釜で煮込んだ温かいイノシシ汁は大人気。直火焼きバームクーヘンは、焼き上がりと同時に長蛇の列でたんば地域木材フェアには欠かせないイベントになりました。

■森のエネルギーで地球を救おう！２００６（「ひょうご森の日」たんば地域イベント）

好奇心と感性を刺激する国産材利用の新しいカテゴリーを目指した「ヒノキの積み木」が国内で初お目見えしました。遊び方を知った来場者が、時間を忘れて楽しみました。

今回のフェアでは、来場者へのオリジナル記念品や出展方法など様々な形でメッセージ（主張）を発信することができました。

また、来場者へのアンケート調査から、たんば地域木材フェアの来場者の54％が篠山、丹波市以外からお越しになり、50歳以上が63％と多数を占めています。

新聞記事、広告、チラシ、ポスターを見て木材フェアの開催を知った来場者が51％と高い割合を示し、メディアの重要性とポスター、チラシの企画、デザインを軽視してはいけないことがよくわかりました。さらに、知人から開催情報を得て来場した割合が33％ありました。

ある新聞記事でリフォームを計画している来場者が、「信用できる業者の情報を集めることができそう」との声が掲載されていました。

回を重ねることでこのような来場者が一人でも多く来ていただけるように、しっかりとしたコンセプトを確立し、イベントにおけるエンターテイメント手法の継続が来場者・顧客満足につながり、マーケティングと何ら変わらないことを痛感しました。

▲職人ならではの精巧なつくり、ディテールにこだわったヒノキの積み木

「たんば地域木材フェア」オリジナル記念品

この「割り箸入れ」は、山で60年以上育てたスギを材料に使っています。素材を吟味し、ひとつひとつ手作りで製作したものです。また、割り箸もスギ材を使用しています。

スギの香りをお楽しみ頂くとともに、この箸箱をそっと握ってください。
柔らかな木のぬくもりを感じていただけたでしょうか。
この「木のぬくもり」が私たちからあなたへの贈り物です。

〈現在、日本国内で流通している割り箸は258億膳。97%が中国産です。主な原料はシラカバが使用されています。しかし、環境保護や燃料代の高騰で値上げが続いています。国内産の割り箸の値段は中国産の2倍以上しますが、材料は端材や間伐材なので需要が増えれば、資源の有効利用や森林保護にもつながります。〉

たんば地域木材フェア実行委員会

紅葉の林道自然観察ウォーキングを実施

1、開催概要

今年も、春の新緑ウォーキングに続き、去る10月28日㈮・29日㈯の二日間、紅葉の森林基幹道瀞川・氷ノ山線で自然観察ウォーキングを開催しました。

この行事は、森林・林業の大切さと林道の必要性について理解を深めて頂くために、㈳兵庫県治山林道協会と兵庫県治山課・但馬高原林道建設事務所の共催で、養父市の協力を得て行っています。

今回は、県下全戸配布の県広報紙「県民だよりひょうご」で参加者を募ったところ、定員40名に対して約3倍の応募をいただき、抽選で選ばれた方の参加となりました。

2、行程

28日㈮　三宮→養父市、林道「横行線」「瀞川・氷ノ山線（氷ノ山工区）」→大段ヶ平→ハチ高原（泊）

29日㈯　ハチ高原→林道「瀞川・氷ノ山線（瀞川工区）」→瀞川山登山→木の殿堂→但馬植物園→三宮

三宮を朝9時に大型バスで出発し、養父市の「あゆ公園」で、市に用意して頂いた中型バス2台に分乗し、養父市商工観光課の職員の方に沿線の名所解説をしてもらいながら、豊富な湧水のある「ぶなのしずく」（写真1）で喉を潤し、紅葉が始まった森林管理道「横行線」を「瀞川氷ノ山線」へ向かい、スギの緑とコントラストが鮮やかなブナやミズナラ、ハウチワカエデなどの紅黄を背景に、植物の名前を宮田樹木医や近藤講師の解説を聞きながら、約3時間林道を歩いていただきました。

写真1　ぶなのしずく

写真2　バイオトイレ

バスのなか、横行の姫ヶ淵では、平家の落人であった姫が、旗指物が立っていたら追手がないという合図を示し合わせ、風で倒れた旗を見て追手が迫ったものと思いこみ淵へ身を投げた話や道が立派になると若者は都会へ出て行ってしまうなど、養父市の方から沿線の解説をしていただき、車窓から指さす方向を熱心に見ていただきました。

大段ヶ平では、遠く妙見山などの山並みを見ながら昼食、昨年設置された、スギのオガクズとバクテリアの力で分解し汚水は再利用するバイオトイレ（写真2）も効果を発揮し、氷ノ山をバックに記念写真撮影をしました。（写真3）

ウォーキングでは、午前に林道最高峰1、200mの地点から宍粟市まで、午後には大段ヶ平から巨木谷まで歩き、沿線の紅葉した樹木や県内最大のミズナラなど自然観察を楽しみました。（写真4）。

写真3　大段ヶ平にて

鶏縄では、和田山農林振興事務所から鶏縄式間伐や林業の置かれている厳しい現状についての説明を熱心に聴いていただき、養父市森林組合の高性能林業機械（プロセッサ）での玉切、集積作業（写真5）を見学しました。

写真4　巨木の谷で観察

写真5　プロセッサでの材の集積

ハチ高原の宿では、夕食後の時間を拝借して、側溝蓋の窃盗被害や法面からの崩落土砂の除去、路体浸食箇所の補修など、林道の維持管理の苦労話に始まり、但馬の雪景色、巨木のいろいろ、ハチ高原の自然等々、約2時間、スライドで治山課職員、近藤講師、宮田講師が入れ替わり解説し、皆さんにお付き合いいただきました。

翌日は、但馬では滅多にない好天に恵まれました。林道の鉢伏山登山口から氷ノ山、ハチ高原の素晴らしい眺望を味わったのち（写真6）、瀞川山（1、039m）に登り（写真7）、但馬の山々

の雄大な景色を楽しんで頂きました。午後は木の殿堂を見学したのち、但馬高原植物園に入り、和池の大カツラ（写真8）など園内を見学し、帰途につきました。

写真6　ハチ高原氷ノ山を望む

写真7　瀞川山頂にて

写真8　和池の大カツラ

3、参加者の感想と意見

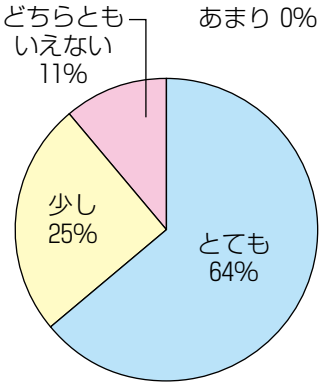
アンケートでは自然観察ができるよい機会だったという感想を多く頂戴しましたが、厳しいご意見もいただきました。

参加者は、若い世代の方も参加していただけるように催行日に初めて土曜日を含めたのですが、金曜日からの1泊2日行程であり、土曜日だけ参加したい、土日でやらないのかというお問い合わせがありました。土日での催行は自家用車が多くバスが通行できないおそれがあったので金土の実施としましたが、勤労者、学生の方の参加を期待するには土日催行がベターであり、難しいところです。

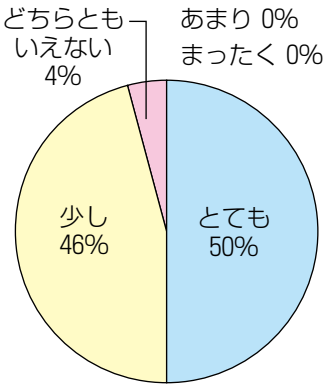
今回は、女性が約6割、60歳以上の方が大多数でした。

【アンケート結果（抜粋）】

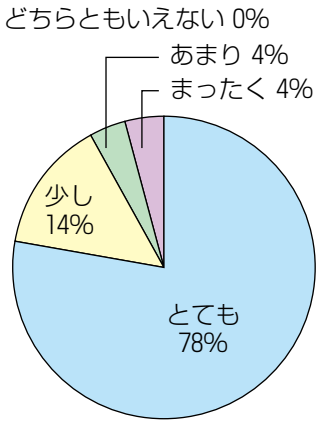
Q、自然に配慮していると思いましたか。



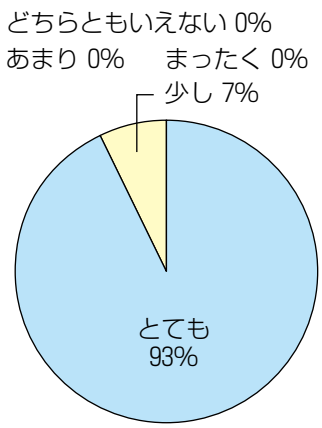
Q、間伐や林業の現状についての説明は理解できましたか。



Q、木材の搬出に林道は役立っていると思いますか。



Q、参加されて楽しかったですか。



【いただいた意見・感想】

- 林道は林業関係者だけの道で一般の者は通行できないと思っていた。
- 林道沿いの看板には、木・花などの名前、現在地・距離・危険箇所・トイレ位置などを表示してほしい。
- 魅力ある林道とは、車両乗り入れが制限された、トイレ・休憩所・駐車場がある林道。
- 林道のトイレは維持費が嵩む、利用者がいるか疑問で税の無駄遣いである。
- 林道の維持管理は裏方の仕事だが大変で頭が下がる。
- 配布資料のガイドブックが内容、編集がよくできているのでもっとPRすべき。
- 60歳以上のシルバー世代で田舎の出身者は地元に戻るので、元気でよく働く者に（林業での活動を）働きかけしてはどうか。

いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

最後になりましたが、無事に怪我なく終了できましたことを、参加者の皆様とバスの手配、案内ご協力いただいた養父市に感謝申し上げます。

大久保地区地すべり災害の概要

但馬地域山地地すべり対策室

平成18年10月8日未明、養父市の鉢伏高原西側で幅200m、長さ200mにおよぶ大規模な地すべりが発生しました。

当地区では昭和60年9月25日にも幅200m、長さ160m、移動土塊量およそ25万㎥の大規模な地すべりが発生していますが、今回は旧地すべり地の上部から東側にかけて幅200m、奥行き50m、高さ25m程の土塊が新たな地すべりを起こして旧地すべりブロックの一部を押し出したか、あるいは一体となって動いたと思われ、新たな移動土砂量は25万～30万㎥程度と推定されています。（写真1、2）地すべりによって流出した土砂は下流にある大久保集落の上流500m付近まで流出、堆積し、農地の一部、農機具小屋等に被害を与えましたが、これまでに設置された治山ダム群により集落への被害は免れました。

写真1　地すべり正面から

写真2　地すべり上部から

写真2では地すべりブロック内の東側（写真向かって左側）はススキの緑が広がっていて乱されていないように見えますが、中はクラックに落ちないように注意しなければならないほどズタズタ状態でした。また上部崖面の直下は陥没地形をしており、崖面や上部からの湧水、流入水による水溜りが複数出来て、このまま放置すると湧水等が地すべりを助長する恐れがありました。（写真3、4）

写真3　地すべりブロック西側から

写真4　東側から
（光って見えるのは流入水等）

地すべりの直接の原因は、大久保地区の下流にある奈良尾地区で10月5日から7日の秋雨前線豪雨が374㎜の累積雨量を記録しており、この豪雨による地下水上昇が原因と考えられますが、当地区周辺の地質は、およそ1万年から180万年前に出来た非常に新しい地質で、鉢伏安山岩類と凝灰岩類が互層をなしていますが、ともに固結度が低く、地すべり等が発生しやすい地質といえます。

【1】被災施設の状況

当地区では、昭和60年度から平成10年度までに集水井工4基、集排水ボーリング2、542m、杭打工190本、アンカー工250本、治山ダム22基、土留工4基、水路工等が約14億円かけて施工されてきました。

今回の地すべりにより、地すべりブロック内に施工した集水井工、杭打工、アンカー工、水路工が被災、下部渓流では谷止工、床固工、土留工等の施設が被災しましたが、崩壊土砂、流出土砂が施設等に覆いかぶさっていて、全ては確認できていません。

地すべりブロック内にあった集水井工3基のうち被災が確認されたのは2基で、残る1基は崩壊土砂の下に埋もれていて確認出来ていません。被災集水井の1基は、地上に飛び出して「ピサの斜塔？」ばりに存在を誇示（写真5）しており、もう1基は、見た目には施工時のままですが内部は地下13m付近で切断され、集水ボーリングの保孔管が井内に飛び出しています。（写真6）

写真5　飛び出したNo1集水井

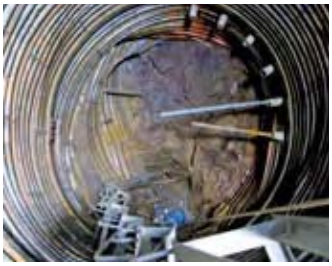


写真6　切断されたNo2集水井

73本施工した鋼管杭打工のうち、2本はブロック内のV字谷のなかに名残を見ることが出来ますが、残りの杭は行方不明です。（写真7）

アンカー工については、受圧板がそこかしこに散乱しているほか、滑落崖の途中からテンドンのワイヤーが

写真7　被災した鋼管杭

写真8　被災したアンカーと受圧板

線が垂れ下がっているなど、地すべりのすさまじさが伺えます。（写真8）

下流の谷止工等の鋼製構造物は、20基が被災したと考えていますが、崩壊土砂、流出土砂に埋没しているものも多く有り、被災の全ては確認できない状況です。（写真9、10、11、12）しかし、昭和60年の地すべり発生時には、流出土砂が下流八木川との合流付近まで流出したことと比較すると、大久保集落を守るため自らを犠牲にして土石流を止めた姿に感動を覚えるのは私だけではないと思います。

（ここから上流で多量の土砂を堆積し、集落への被害を防いだ）

写真10　埋没した4基の床固工

写真9　土石流末端部の谷止工

写真12　同谷止工群

写真11　被災しつつも土砂を止めた床固工群

被災総額は、埋没して未確認のものもあり確定することは出来ませんが、当時の工事価格で6億円前後と推定されています。

【2】緊急対策

被害発生した10月8日、被災地にいた土建会社専務に地すべりブロック内の陥没部分の溜まり水をブロック外へ排出するためのパイプと大型土のうによる仮締切工の設置について協力要請しました。その場でパイプの在庫調査、重機の手配等について連絡していただき（携帯電話は便利）、翌9日から工事に着手、翌々日の11日には完了しました。（写真13、14）次に、地すべり上部の谷から流入する水を遮断するためのパイプ設置も14日に完成し、ブロック内の溜まり水は大きく減少しました。

写真13　林道側溝を利用して排水

写真14　崖面上部の導水パイプ

養父市においても、地すべり末端部にセンサーが設置され、地すべりが活動したら大久保集落内において赤色燈がひかり、サイレンが鳴るようにセットされましたが、現在までセンサーが感知するような地すべりは発生していません。

また、市から要請を受けて現地にいたコンサルタント所長に詳細な現地調査と測量について協力要請し、16日には地すべりブロックの測量図が完成計画立案の基礎としました。

その後、融雪期の地すべり活動を抑制するため、地すべりブロック内への雨水、融雪水などの浸透を防止するための整地工、地表面付近の浅い地下水を排除するための暗渠工、地すべり面付近の深い地下水を汲み上げるための揚水孔を実施して積雪期を迎えました。（写真15、16）

写真15　暗渠工

写真16　掘進中の揚水孔
（周辺は整地済み）

あわせて調査ボーリング等にも着手し、地すべりの機構解明に努めるとともに、積雪および融雪期の動態観測に向けて、自動観測システムの構築に取り組みました。自動観測システムは、歪計、地中伸縮計、GPS受信機、ウェブカメラ、土石流センサーを設置して微小なミリ単位の動きから10mを超える大きな動きまで観測できるようにしています。これらの情報は、インターネットを通じてパソコンを開けばリアルタイムで状況がわかるようにしているほか、異常な動きが観測された場合は、すぐさま電話とサイレン等により住民に危険が伝えられるようにしており、避難に役立ててもらうようにしています。

【3】復旧対策

本格的な復旧に向けて、被災した施設の復旧については地すべり防止施設災害復旧事業で、拡大した地すべり部分では災害関連緊急地すべり防止事業により国の採択を受けるべく、突貫で計画書を作成しました。

災害関連緊急地すべり防止事業では、渓流内に堆積する土砂による土石流発生に備え、下流での谷止工計画を10月20日に、上部滑落崖の拡大崩壊防止のための法枠工、アンカー工等の計画を11月8日に、地すべり防止施設災害復旧事業では、集水井工、アンカー工、杭打工、水路工、谷止工、床固工、排土工等の計画を11月8日に、総額約20億円で申請しました。

県下各地から延べ100人におよぶ応援をいただいたおかげで、本当に短期間に申請書を完成させることが出来ました。応援いただいた職員および事務所の方々に、紙面を借りて心からお礼を申し上げます。

国からは17億を超える工事を認めていただき、これらの発注、完成に向けて、職員一丸となって住民のために頑張りますので、今後とも皆様のご理解とご協力をお願いします。

但馬産間伐材の利用拡大を進めるため 間伐材製品利用事例集の発行について

但馬県民局　地域振興部　和田山農林振興事務所

Ⅰ、はじめに

間伐材の利用拡大は、森林整備の推進と森林資源の有効利用に欠くことのできないものです。利用の主体は現在、治山、林道、土木などの公共事業ですが、今後、間伐材の利用を進めるためには、原木の安定供給、加工体制整備と共に需要先を拡大していくことが重要な問題です。

そこで、今回消費量の拡大に関して、但馬流域森林・林業活性化センターにより「但馬産間伐材利用拡大検討会」を開催して、間伐材の利用拡大を図るためのツールとして事例集のとりまとめ等を行いましたのでその概要を報告します。

Ⅱ、利用間伐の取組み状況

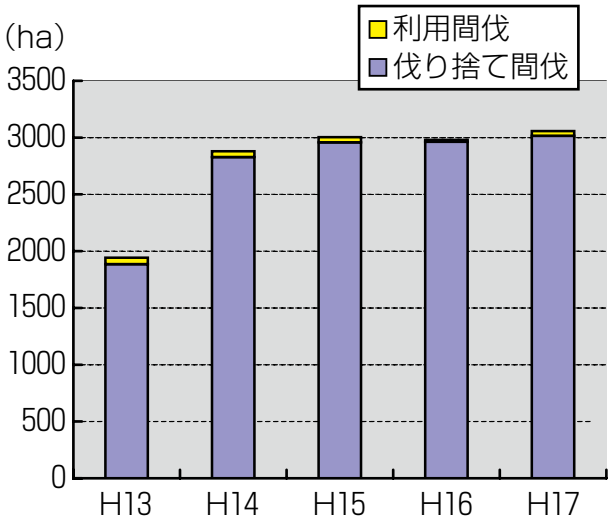
但馬地域には、約18万haの森林があり、その内人工林が約9万haを占めています。この人工林では、36年生以上が62％を占める状況で、間伐の実行と合わせて森林資源の有効利用を積極的にしなければなりません。

しかし、間伐の実行は「森林管理100％作戦」により大幅に増加しましたが、発生する間伐材はほとんど利用されず、林内に放置されているのが但馬地域の実態です。

この課題に対して現在林業普及プロジェクトとして取り組んでいるのが「鵜縄式間伐」の普及です。これは、作業道、高性能林業機械の導入で搬出コストを削減して収益を確保し、利用間伐を促進して、原木の安定供給を行うことを目指しています。

また、「鵜縄式間伐」は残存列も間伐を行うため、過密林分の間伐において水土保全に有効な方法となります。

鵜縄式利用間伐の実施状況



但馬の間伐実施面積と利用間伐面積の推移

Ⅲ、㈳但馬材林産加工センターの設立と間伐材製品の供給体制整備

このような状況の中で、但馬内7つの森林組合が、間伐材の有効利用を目的に、平成16年3月に㈳但馬材林産加工センターを設立して、平成17年1月から稼働を開始しています。工場は養父市八鹿町八木にあります。

当施設は、丸棒、半割、一～四面挽の形状加工のできる丸棒加工機やその他機種を導入して、需用者の要望に答えられるよう供給体制をとっています。

また、防腐加工も他社と提携して注入処理にも対応できるようになっており、但馬地域の間伐材加工の中核的施設としてその役割が期待されています。

但馬材林産加工センター

Ⅳ、「但馬産間伐材利用拡大検討会」による協議

原木供給体制、加工体制の整備が進む中で、重要課題である消費の拡大に対応するため但馬内の農林振興事務所森林林業課、治山課、林道事務所、地すべり対策室、兵庫みどり公社、森林組合、加工センターの若手職員を中心とした18名の検討会を立ち上げました。

検討課題として

(1)県民緑税充当事業への利用拡大

(2)新製品の検討

(3)原木供給、製品販売促進活動

について、検討を重ね今年度の目標として、主に但馬地域で施工されている木材使用事例集をまとめて、使用事例の検証と消費拡大を図ることになりました。

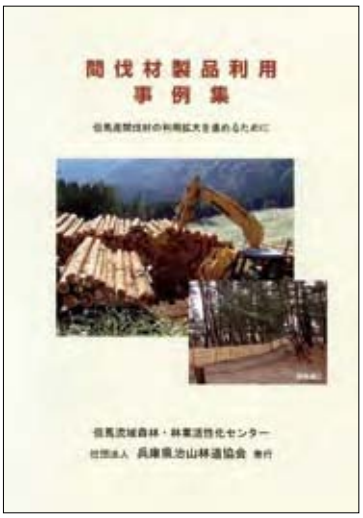
新製品の検討の中では、谷止工の水抜き閉塞防止工の二次製品化について試作を行いました。今後、現地施工を計画しています。

また、原木供給については、森林組合による工場直送体制の整備について検討をしました。

水抜き閉塞防止工の試作品検討会

V、間伐材製品使用事例集の概要

本事例集の発行にあたりましては、㈳兵庫県治山林道協会のご協力を頂きました。次に発刊した事例集の一部をご紹介いたします。

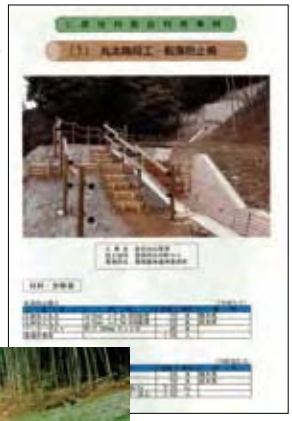


表紙

集水井安全防護柵

丸太落石防止柵工

各頁の見本
(写真と歩掛)


丸太階段工・
転落防止策

歩道防護柵

防風柵工

丸太柵工(3段積)

Ⅵ、今後の展開

今後は、道路、河川、砂防、港湾、土地改良、漁業などで使用が見込まれる国、県、市町関係機関を中心に、作成した事例集を使って間伐材の利用を提案していくことにしています。

また、森林組合においては、原木の安定確保が最重点課題ですが、但馬の間伐材が使ってもらえるように土木、造園業者等に対して販売促進活動を強化していくことにしています。

今後も「但馬産間伐材利用拡大検討会」の活動を続けていくことにしていますが、関係方面の多くの皆様のご指導、ご協力が必要となります。格別のご配慮よろしくお願い申し上げます。

フラワープランター

ウッドガードレール

木製ベンチ

組立式ステージ

語り継ごう「山津波」下三方小学校の取り組み

西播磨県民局地域振興部龍野農林振興事務所　谷本　実

昭和51年9月13日台風17号による豪雨により、一宮町福知地区の通称「抜山」が10haにわたり崩壊し、100万㎥の土砂が下三方小学校を含む公共施設17棟、家屋40戸等を押し流し、死者3名という未曾有の被害が発生しました。

被災写真

以後、下三方小学校では、「命の尊さ」や、「目的に向かい心ひとつに協力することの大切さ」を忘れることのないよう、9月13日を「山津波災害の日」として位置づけ、毎年この日には、地域の方々の証言を聞いたり、災害に対する心構えについて話し合ってきました。

今年は、災害後30年という節目の年であることから、毎年行っている淡路市立（旧津名郡一宮町）郡家小学校との「海と山の交歓会」において、下三方小学校児童が山津波について発表会を行いました。

「海と山の交歓会」は、昭和34年に姉妹校として提携した両校が行っている行事であり、小学5年生の児童が夏には淡路へ、秋には宍粟へと交流し今年で47回を迎えました。

昭和51年の災害の時も、平成7年の阪神淡路大震災の時も交歓会は絶えませんでした。

今回、災害の説明と対策工の現地案内の依頼を受け治山事業の大切さを少しでもPRできたらと思い参加しました。

説明状況

下三方小学校5年生16名、郡家小学校5年生15名、保護者15名参加のもと被災当時のビデオを見てもらい、写真パネルを使い災害当時の状況、崩壊の原因、治山工事の内容を説明し、最後に崩壊の要因となった地下水を排除する集水井からの排水トンネル工の内部を見学してもらいました。

トンネル見学

その後、児童が各班に別れ家族・地域の方に聞いた災害当時の被害状況や災害時何をしたか等について発表を行いました。

研究発表

ビデオ鑑賞

災害について、家族で話し合うことにより、災害の怖さ・防災に対する心構え・避難場所等が認識され、災害を語り継ぐことで非常に良い学習になるのではないでしょうか。

兵庫のきのこ（9）

丹波県民局地域振興部柏原農林振興事務所　正井俊郎

17、腹菌類

腹菌類は真正担子菌綱に属するが、ハラタケ類やヒダナシタケ類のように胞子が作られる部分は露出されずに、胞子が充分成熟するまで殻皮に包まれる。肉眼的特徴は変化に富み、人目を引き興味の持たれるものが多く、県内では、6目11科17属22種が知られている。

ニセショウロ目、ホコリタケ目のキノコには、コツブタケやオニフスベのように、丸くて、地面や、地中に生えるものが多いが、ツチグリやヒナツチガキのように外皮が星形に裂開するものもある。ホオベニタケなどのケシボウズタケ目のキノコは柄や擬柄が付いているのが特徴である。チャダイゴケなどのチャダイゴケ目のキノコはコップ形で、内部に胞子の入った小塊粒をつくるので、卵の入ったミニチュアの鳥の巣のように見える。独特の臭気のあるカゴタケやサンコタケなどのスッポンタケ目のキノコやショウロなどのヒメノガステル目のキノコもこの仲間である。

18、キクラゲ類

異型担子菌綱に属するキクラゲ類は、担子菌の中でも、ハラタケ類やヒダナシタケ類と異なり、担子器が多室であったり、単室であっても太い小柄を持つのが特徴である。肉眼的には、形が花びら状～座布団状など様々であるが、湿っているときは、ゼラチン質、ロウ質のものが多い。県内では、シロキクラゲ目のコガネニカワタケ、キクラゲ目のキクラゲ、アラゲキクラゲ、アカキクラゲ目のツノマタタケなど3目4科8属11種のキノコが知られている。

ホオベニタケ（クチベニタケ科）
ブナ林に生え、パチンコ玉ほどの大きさで、中央部は赤い唇のように突き出ている。外皮表面が淡紅色をしているのでこの名がある。

ヒナツチガキ（ヒメツチグリ科）
林内の落葉上に群生する小形のキノコ。幼菌は球形で、表面は褐色の綿毛で覆われる。成熟すると外皮は星形に裂開する。

オニフスベ（ホコリタケ科）
あぜ道や庭園などに生える大形～超大形のキノコ。最初は白色、しだいに褐色に変わり、古綿状になって、風に吹かれて消える。

コガネニカワタケ（シロキクラゲ科）
広葉樹の枯れ木に生じる重なりあった波状～葉状の黄金色をしたキノコ。ゼラチン質であるが、乾燥すれば収縮して軟骨質となる。

カゴタケ（アカカゴタケ科）
林地の落葉上に群生する。幼菌はたまご状で、裂開して丸かご形となり、斜面を転がったりする。フルーツのような甘い匂いを放つ。

ツノマタタケ（アカキクラゲ科）
枯幹上に生じる軟骨状にかわ質の小形キノコ。全体が透明感のある橙黄色で、有柄、上部はへら形～扇形をしている。

＊ホームページ「Mushyのキノコ写真ギャラリー」
http://www5b.biglobe.ne.jp/~tmasai/indexj.html もご覧下さい。

森林・林業関係国予算内示の概要（H19当初予算、H18補正予算）

平成19年度 農林水産予算概算決定の概要（平成18年12月　農林水産省）

Ⅰ．総　括　表

区　分	18年度予算額（億円）	19年度概算決定額（億円）	対前年度比（%）
農林水産予算総額	27,783	26,927	96.9
1　公共事業費	12,090	11,397	94.3
一般公共事業費	11,898	11,205	94.2
災害復旧等事業費	192	192	100.0
2　非公共事業費	15,692	15,530	99.0
一般事業費	9,332	9,456	101.3
食料安定供給関係費	6,361	6,074	95.5

（注）　1．計数整理の結果、異動を生じることがある。
　　2．係数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。

Ⅱ．公共事業費一覧

事　項	18年度予算額（百万円）	19年度概算決定額（百万円）	対前年度比（%）
農業農村整備	727,829	674,656	92.7
林野公共	288,832	282,368	97.8
治　山	119,622	112,012	93.6
森林整備	169,210	170,356	100.7
水産基盤整備	153,104	144,148	94.2
海　岸	20,039	19,338	96.5
一般公共事業費　計	1,189,804	1,120,510	94.2
災害復旧等	19,225	19,225	100.0
公共事業費　計	1,209,029	1,139,735	94.3

（注）　上記のほか、地域再生基盤強化交付金措置額を内閣府に計上。

平成19年度 林野庁一般会計予算内示額総括表（平成18年12月20日）

（単位：百万円）

	事　項	平成18年度予算額	平成19年度内示額	備　考
公共事業	治山事業	119,622	112,012	・国有林・民有林一体とした治山事業の展開 特定流域総合治山事業（拡充）　1.950の内数
公共事業	森林整備事業	169,210	170,356	・100年先の森林を見据えた育成林整備の推進 流域育成林整備事業（新規）　25,101
公共事業	**一般公共事業計**	**288,832**	**282,368**	
公共事業	災害復旧等事業	9,974	9,974	
公共事業	**公 共 事 業 計**	**298,806**	**292,342**	
非公共事業	（項）林野庁	60,036	59,240	
非公共事業	うち国有林野事業特別会計へ繰入	54,485	53,814	
非公共事業	（項）林野庁施設費	44	66	
非公共事業	（項）林業振興費	32,853	24,764	
非公共事業	保安林等整備管理	529	553	
非公共事業	森林計画	1,114	1,113	

事　項		平成18年度予算額	平成19年度内示額	備　考
非公共事業	森林の整備・保全 （うち森林づくり交付金）	4,143 (3,695)	3,756 (3,323)	・「100年の森林づくり」加速化推進事業（新規）　35 ・地域活動支援による国民参加の緑づくり活動推進事業（拡充）　169 ・未整備森林緊急公的整備導入モデル事業　1,971
	林業・木材産業等振興対策 （うち強い林業・木材産業づくり交付金）	16,322 (6,990)	16,302 (6,433)	・低コスト木材供給体制整備事業（新規）　955 施業集約化・供給情報集積事業　559 素材流通コーディネート事業　41 低コスト作業システム構築事業　202 ・住宅分野への地域材供給支援事業（新規）　0 ・木製道路施設普及促進のための技術開発事業（新規）　0 ・木材供給構造改革緊急条件整備事業（拡充）　2,000 ・木質バイオマス利活用推進対策事業（新規）　87
	林業普及指導	520	520	
	森林病害虫等防除	986	998	
	国際林業協力	393	363	
	林業・木材産業改善資金造成	5	20	
	森林整備地域活動支援対策	7,404	0	・森林整備地域活動支援交付金（新規）　0
	森林整備活性化資金利子補給	129	194	
	林業信用保証事業	929	454	
	林業振興事業指導事務等	380	491	・低コスト木材供給体制整備事業（新規） （森林整備効率化支援機械開発事業　153）
	（項）独立行政法人林木育種センター運営費	1,905	0	
	（項）独立行政法人林木育種センター施設整備費	380	0	
	（項）独立行政法人森林総合研究所運営費	8,443	10,317	
	（項）独立行政法人森林総合研究所施設整備費	154	256	
	（項）山林事業指導監督費	40	37	
	非公共事業計	**103,813**	**94,679**	
総　計		**402,619**	**387,021**	

（注）1．上記のほか、地域再生基盤強化交付金措置額を内閣府に計上。
2．計数は四捨五入により、端数において合計と一致しないものがある。

平成18年度　林野庁関係補正予算の概要（平成18年12月　林野庁）

補正追加額1,131億円　うち森林の整備関係530億円※

（単位：百万円）

追　加　項　目	公共追加額	非公共追加額	計
1．台風等防災緊急対策［一般公共事業関係費］	74,011		74,011
（1）治山事業 うち保安林の整備※	47,500 26,500		47,500 26,500
（2）森林整備事業※	26,511		26,511
2．災害復旧等事業費	38,750		38,750
（1）山林施設災害復旧事業	20,343		20,343
（2）山林施設災害関連事業	18,407		18,407
3．耐震関係改修経費（独立行政法人施設の改修費）	26,500	374	374
合　計	112,761	374	113,135

（参考）上記のほかに、事業効果の早期発現を図るため施行する事業について、国庫債務負担行為（ゼロ国債）の補正（事業費規模で治山事業90億円、森林整備事業39億円、合計129億円）を計上する。

京都議定書森林吸収目標達成に向けた対策について

◎条約事務局の審査にも耐えうるよう検証を進めてきた森林に関する各種データを基に、新たな森林・林業基本計画の森林整備方針（長伐期化、針広混交林化）を踏まえて、追加整備量が試算された。

◎試算の結果、京都議定書森林吸収目標１３００万炭素トンの達成を図るためには、次の追加整備が必要とされた。

平成19～24年度の6年間において、毎年20万haの追加整備

初年度（H19）の取組

◎対策の初年度である平成19年度においては、次のとおり平成18年度補正予算を併せ、20万haを超す（23万ha）追加整備に必要な予算（765億円）を確保

①平成18年度補正予算　５３０億円【概ね15万haの整備】

台風等防災緊急対策740億円のうち

森林吸収源対策にも直接資する予算額５３０億円

・災害防止を目的とした間伐等の森林づくりを緊急的に措置することを通じて、結果的に京都議定書算入対象森林の確保に寄与

②平成19年度当初予算　２３５億円【概ね8万haの整備】

○農林水産省を挙げた森林吸収源対策の加速化

・林野公共予算における森林整備への重点化

（対前年比65億円の増）

・水産基盤整備事業と連携した

「漁場保全の森づくり事業（１００億円）

・農業農村整備事業と連携した

「農業用水水源地域保全整備事業」（50億円）

○「未整備森林緊急公的整備導入モデル事業」の創設（新規）

～美しい森林への再生モデル事業～

（森林づくり交付金33億円のうち20億円相当）

・立地条件等により所有者の自主的な整備が進まない箇所の森林整備手法構築に向けた、定額助成方式によるモデル的な取組

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

昨年は大きな台風の襲来こそありませんでしたが、梅雨前線豪雨による風倒木跡地の災害や10月には養父市大久保地区での地すべり災害が発生しました。地球温暖化に伴う異常気象とか云われておりますが、最近の気象データ（降雨の量や強度など）から見ると自然災害の頻度はかえって高まりつつあるのではと心配しています。

今年こそ、災害の無い平穏な一年であって欲しいと願っているところです。

県では、平成14年度から進められている「新ひょうごの森づくり」に加え、新たな展開として18年度から導入された「県民緑税」を活用した『災害に強い森づくり』がいよいよ事業として始まりました。平成18年度から22年度までの5カ年間に、緊急防災林整備を中心に、里山防災林やモデル的な針・広混交林、野生動物育成林などあわせて、県下で15、７００haの森林整備が展開されます。これらは主として森林の防災機能の強化を目指して実施されるわけですが、今後、研究部門等との連携のもと、施工箇所の効果調査を継続的に行うなど検証され、施業としての手法を確立しマニュアル化して頂きたいものです。

年末には、平成19年度の国予算内示が発表されましたが公共事業の縮減ということで、一般公共事業は総じて厳しい状況にあり、治山事業は対前年度比93・6％（民有林治山は90・0％）となっています。特に、ここ数年来、森林整備等の財源確保として要望してきた「環境税の創設」については、「税制改正大綱」において引き続き検討事項とされ、先送りされてしまいました。しかし、地球温暖化防止に向け森林吸収源対策を推進する必要があることから、森林整備関係予算については、対前年度比１００・7％の伸びとなっています。また、京都議定書森林吸収目標1、３００万炭素トンを確実に達成するための対策として、昨年から森林に係る各種データの検証が進められ、新たな森林林業基本計画の森林整備方針を踏まえて追加整備量の試算が行われてきました。その結果、今後「平成19年度から24年度の6年間において、毎年20万haの追加整備」が実施されることとなりました。本対策の初年度となる平成19年度においては、平成18年度の補正予算額の５３０億円と19年度の農林水産省全体で取り組む森林吸収源対策の加速化関連予算２３５億円を併せた７６５億円の予算が確保され、全国で23万haの追加整備が実施されることとなりました。厳しい予算状況の中ではありますが、森林整備関係についてはそれなりの成果が有ったのではないでしょうか。

森林の整備・保全は、長期的な視野に立って計画的、継続的に進める必要がありますが、整備を必要とする森林の多くが過疎化する農山村にあり、財政的にも厳しい状況にあります。県での先進的な取組や国での新たな動きを踏まえ、今年も県民の方々のご理解とご支援を得ながら、美しいひょうごの森づくりを進めようではありませんか。

末筆ですが、「やまなみ21号」の発刊あたり、ご協力を頂きました皆様に心から厚くお礼申しあげます。

また、次回「やまなみ22号」の発刊は4月下旬頃を予定しておりますので、森林・林業等に関わる地域の話題など情報の提供についてご協力をお願いします。

やまなみ　第21号　平成19年１月５日発行　社団法人兵庫県治山林道協会
神戸市中央区北長狭通5丁目5－18　TEL(078)371－0210　FAX(078)371－6632
編集責任者　中 野 一 郎　印刷所　創文社

「やまなみ」には森林（もり）にやさしい再生紙を使用しています。